

協働評価シート

事業名		みんなで子育て地域の絆 「いのちの授業」	実施年度	平成28年度
部 局		教育委員会	課 所	学校教育課
団体等の名称		社会福祉法人 新居浜市社会福祉協議会		
評価項目			評価者	評価
相互理解	それぞれの特性や立場を理解し合えたか	お互いの特性や立場を十分に認識、尊重して、事業を実施することができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
対等	双方が対等の立場に立っていたか	対等な立場で協議、事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
自主	市民の自主的な活動が尊重されたか	自主的活動を十分に活かして事業効果を増加させたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
自立	市民の自立化を阻害しなかったか	依存体質が助長されるなど、市民の自立化が阻害されることがなかったかどうかを評価。(新たな自発的事業展開につながり自立化が進んだ場合はA評価)	団体等	A
			市	A
目的共有	双方が協働事業の目的を共有できたか	協働事業の目的は十分に共有して事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
情報共有	双方がお互いの情報を共有できたか	情報を十分に共有しながら事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	B
			市	B
公開	双方の関係を十分に公開できたか	全て公開され、利便性も高いかどうかを評価。	団体等	B
			市	B
「相乗効果」が発揮され、独自で行うよりも効果的と認められるか		「相乗効果」が十分に発揮され、協働が効果的と認められるかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたか		十分に市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたかどうかを評価。	団体等	B
			市	A

事業の目的、目標が達成されたか、どのような成果があったか、具体的な改善点等があれば記載（自由記述）

<p>団体等</p>	<p>「かけがえのない命」について学ぶことができ、事業の目的が達成できた。</p> <p>◆成果◆</p> <p>①中学3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段触れ合うことの少ない赤ちゃんに対し、とまどいを感じながらも最後には笑顔で赤ちゃんを抱いたりあやしたりする姿がみられ、愛おしさや命の重さを感じてもらえた。 ・ 母親から育児の話聞き、命のつながりや家族の大切さを学び、自分たちがどれだけ親に大切に育てられたかということや、子どもを育てることの大変さを伝えることができた。 <p>②母親</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生と交流することで、将来の我が子の姿を思い浮かべることができ、今後の子育ての励みになった。 <p>③地域の協力者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民同士が触れ合える新しい活動であった。 ・ 地域における世代交流ができた。 <p>④職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の関係機関や団体の方と一緒に活動したことでお互い知り合うことができ、今後地域における様々な活動に繋ぐよい機会となった。 <p>◆改善点◆</p> <p>① 赤ちゃんにとって気候の良い時期に実施できるように年度当初に実施校と打ち合わせをし、日程調整をする。</p> <p>② 赤ちゃん親子の募集を早く始めて、1グループに最低2組の赤ちゃん親子が配置できるように募集する。</p> <p>③ 生徒には、参加している母親にする質問を事前に考えてもらう。</p> <p>④ 地域の関係機関や団体の協力を募り、役割分担の調整をしっかりと行い親子と生徒がスムーズに交流できるようにする。</p> <p>⑤ 後半の「命についての授業」はクラス別にしていたため講師により授業の内容が多少違っていたので、一人の講師に依頼し同じ授業内容が提供できるようにする。</p>
<p>市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育課で実施希望調査を実施し、効率的に実施校を決定できた。 ・ 新居浜市社会福祉協議会と協働することで、地域団体や市民も参加して中学生との交流を持つことができた。
<p>相互協議結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開催時期については、気候のよい春、秋で1校ずつ開催するようになっていく。 ・ 小学校で実施している誕生学プログラムの講師と協力して実施していく。